

令和4年度全国学力・学習状況調査結果【小学校】について

境港市教育委員会事務局

本年4月19日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全国・県の結果と合わせまして本市の状況をお知らせします。



ただし、本調査により測定できる学力は一部であり、総合的な学力を表すものではありません。学習状況調査を含めた分析の結果が、子どもたちのよりよい学びをめざす指針になればと考えております。

教科の調査から 国語・算数・理科

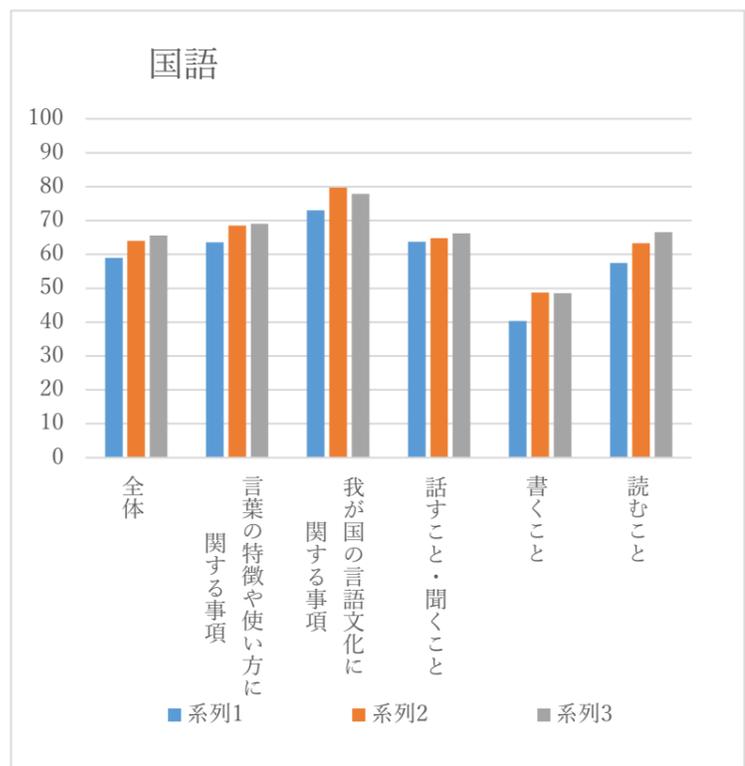
国語

【評価について】 A:全国平均との差が+3%を超える B:全国平均と同等から+3%まで
C:全国平均との差が-3%まで D:全国平均との差が-3%を下回る
※ 表およびグラフの数値は、すべて「平均正答率(%)」を表しています。

	境港市	県	全国	R4全国差	R4評価	R3全国差	R3評価
全体	59	64	65.6	-6.6	D	-6.7	D
言葉の特徴や使い方に関する事項	63.6	68.5	69.0	-5.4	D	0.1	B
我が国の言語文化に関する事項	73.0	79.7	77.9	-4.9	D	-	-
話すこと・聞くこと	63.7	64.8	66.2	-2.5	C	-12.1	D
書くこと	40.3	48.7	48.5	-8.2	D	-12.9	D
読むこと	57.5	63.3	66.6	-9.1	D	-11.5	D

＜国語＞【成果・課題となる内容】

- ・令和3年度の課題であった「話すこと・聞くこと」については、全国との差が大きく縮まり改善傾向が見られます。必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができています。
- ・「読むこと」については、登場人物の相互関係について描写をもとに捉えること(全国比-13.7)や登場人物の行動や気持ちを叙述をもとにとらえること(全国比-11.8)に課題があります。様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことが大切です。また、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが大切です。
- ・「書くこと」については、全国との差が縮まり改善傾向ではありますが、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること(全国比-11.6)に課題があります。書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、読み手にとって分かりやすい文章にすることや自分の伝えたいことをより明確にすることを意識して推敲することが大切です。例えば、ICTを活用して推敲することも有効です。自分の一番伝えたいことをどこに書けばよいか考え、構成を変えることができます。



【児童質問紙とのクロス集計より】

- ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に肯定的に回答している児童の平均正答率が高くなっています。
- ・「新聞を読んでいますか」「あなたの家には、どれくらいの本がありますか」という質問に肯定的に回答している児童の平均正答率が高くなっています。「普段、一日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に30分以上と回答している児童の平均正答率が高くなっています。活字にふれる機会を増やすことや読書環境を整えることが大切です。学校の図書館や市民図書館を有効活用することも本に親しむ児童の育成につながると考えられます。

算数

【評価について】 A:全国平均との差が+3%を超える B:全国平均と同等から+3%まで
 C:全国平均との差が-3%まで D:全国平均との差が-3%を下回る
 ※ 表およびグラフの数値は、すべて「平均正答率(%)」を表しています。

	境港市	県	全国	R4全国差	R4評価	R3全国差	R3評価
全体	56	62	63.2	-7.2	D	-6.2	D
A 数と計算	65.3	69.6	69.8	-4.5	D	-8.2	D
B 図形	53.8	62.3	64.0	-10.7	D	-6.6	D
C 測定	-	-	-	-	-	-7.0	D
C 変化と関係	41.9	47.5	51.3	-9.4	D	-4.6	D
D データの活用	63.3	68.0	68.7	-5.4	D	-8.0	D

<算数>【成果・課題となる内容】

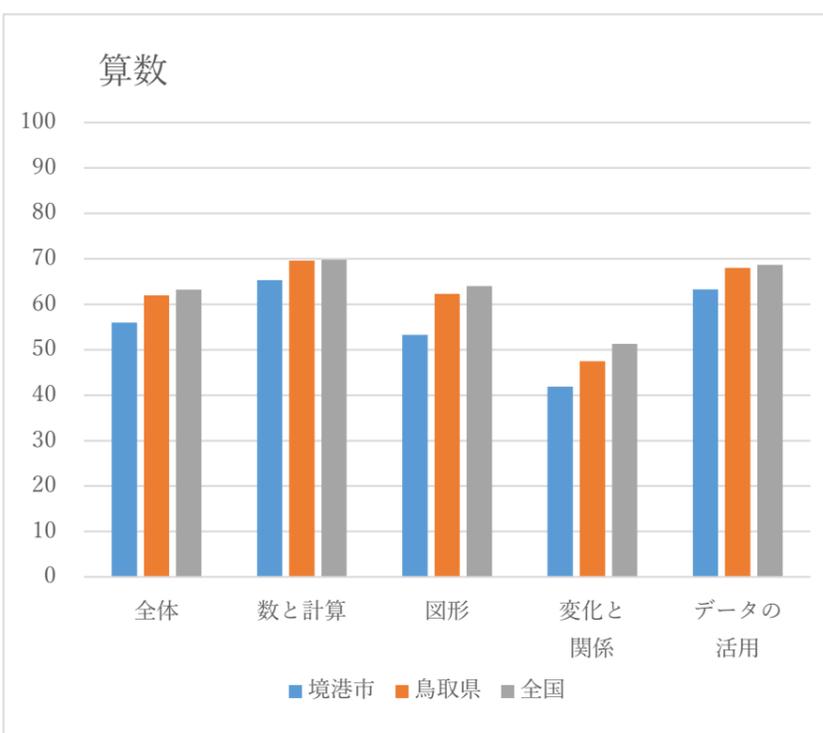
- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること(全国比+0.2)については全国平均を上回っております。「数と計算」領域は、令和3年度より全国との差が縮まり改善傾向が見られます。
- 領域別に見ると「図形」、「変化と関係」が大きく全国平均を下回っております。
- 百分率で表された割合を分数で表すこと(全国比-11.2)に課題があります。割合の表し方を理解し、百分率を求めたり、用いたりすることや割合を分数や小数で表すことができるようになることも大切です。
- 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること(全国比-12.6)に課題があります。問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるようにすることが重要です。そのために、(基準量)×(割合)=(比較量)などの言葉の式だけではなく、図にかいて数量の関係を捉え、比較量を求める式を立てることができるようになることが大切です。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する(全国比-11.6)ことに課題があります。数量の関係を表に整理し、その際、一方の数量のみに着目するのではなく、2つの数量がどのように変わっているかに着目して、一方が2倍、3倍になるとそれに伴って、他方も2倍、3倍となること等、比例の関係を捉え、未知の数量を求めることができるようになることが大切です。
- 示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直すこと(全国比-11.3)に課題があります。図形領域のプログラミングの学習を通して、図形の意味や性質をもとに、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について改めて考えることが重要です。実際に、プログラムを作ってみて、気が付いたことをもとに別の図形をかくことに挑戦してみることも大切です。

【児童質問紙とのクロス集計より】

- 「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」や「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に肯定的に回答している児童の平均正答率が高くなっています。また、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」、「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」という質問に肯定的に回答している児童の平均正答率が高くなっています。学校・家庭・地域で連携し、児童が学んだことを活用することや学んだことをもとに新たな方法を考えることができる場を作る等、学びに向かう力を伸ばすことも大切です。

【一人一台端末の活用】

境港市では、児童・生徒用の一人一台端末に、一人一人が自分のペースに合った学習をすることができるように「eライブラリー for まなびポケット」を導入しております。自分が得意な学習については、さらにレベルの高い問題にチャレンジしたり、苦手な学習については、繰り返し問題にチャレンジしたり、関連する過去の学年の問題にかえて学習したりすることができます。学習時間の活用はもとより、放課後や家庭等での学習についても有効活用してください。



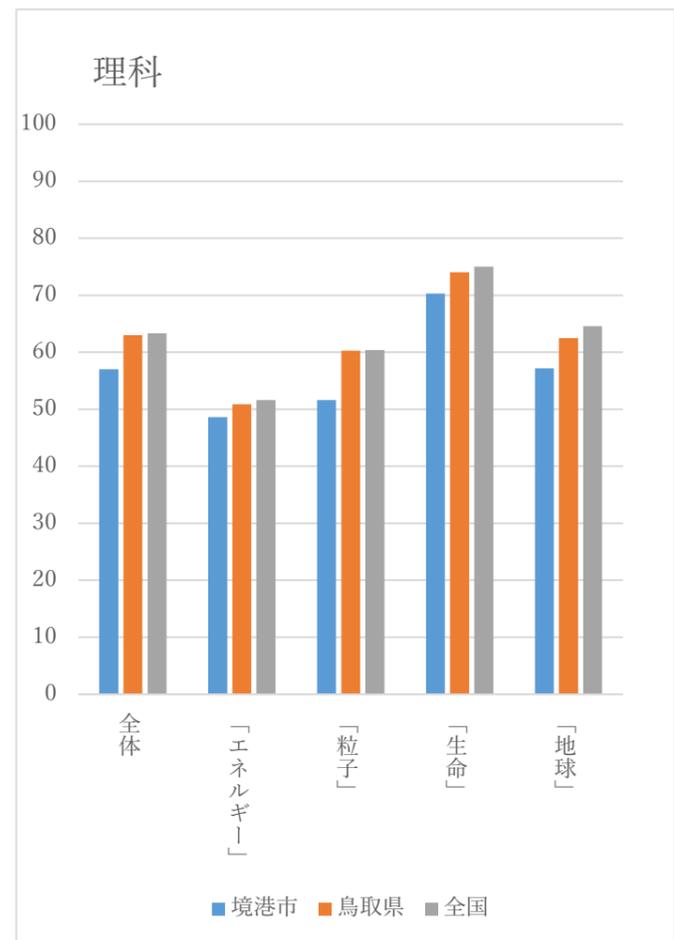
理科

【評価について】 A:全国平均との差が+3%を超える B:全国平均と同等から+3%まで
 C:全国平均との差が-3%まで D:全国平均との差が-3%を下回る
 ※ 表およびグラフの数値は、すべて「平均正答率(%)」を表しています。

	境港市	県	全国	R4全国差	R4評価	H30 全国差	H30 評価
全体	57	63	63.3	-6.3	D	-2.3	C
「エネルギー」を柱とする領域	48.6	50.9	51.6	-3.0	C	-2.4	C
「粒子」を柱とする領域	51.6	60.3	60.4	-8.8	D	-1.5	C
「生命」を柱とする領域	70.3	74.0	75.0	-4.7	D	-1.7	C
「地球」を柱とする領域	57.2	62.5	64.6	-7.4	D	-4.3	D

<理科>【成果・課題となる内容】

- ・「エネルギー」を柱とする領域については、全国平均に近い結果となっております。光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶこと(全国比-0.1)は、全国平均並みの正答率でした。知識をより深く理解できるようにするためには、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにすることが重要です。
- ・一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書くこと(全国比-20.6)に課題があります。実験において正確に水の体積をはかり取るためには、ビーカーではなくメスシリンダーを使用する必要があります。目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験に関する基本的な技能を身に付けることが必要です。
- ・夜の気温の変化について、他者の予想をもとに、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶこと(全国比-11.3)に課題があります。誤答を見ると、「気温は変化しない」という友達の予想をもとに観察結果を見通すことができていることが伺えます。普段から、自分の予想や結果だけではなく、友達の予想が確かめられた場合の結果を見通し、それをもとに解決の方法を発想することが大切です。
- ・実験の結果をもとに、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶこと(全国比-9.3)に課題が見られます。観察、実験の結果を基にして、予想について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにすることが大切です。そのためには、観察、実験の結果が出た後に、予想と結果について、それらの整合性を調べ、自分の考えをより科学的なものに変容させることができるようにすることが重要です。
- ・昆虫の体のつくりの特徴をもとに、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶこと(全国比-9.2)に課題が見られます。知識をより深く理解できるようにするためには、複数の対象について調べ、調べたことを関連付けて考えることが重要です。例えば、ICT を有効活用し、昆虫の体のつくりについて、頭、胸、腹といった部分に着目して調べて共通点を探す等、複数の昆虫の体のつくりについて関連付けて学習することが有効であると考えられます。



【児童質問紙とのクロス集計より】

- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という質問に肯定的に回答している児童の平均正答率が高くなっています。また、「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか」という質問に「地域の活動に参加している」と回答した児童の正答率が高くなっています。
- ・「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」や「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に肯定的に回答している児童の平均正答率が高くなっています。

児童質問紙調査から ～学習習慣や生活習慣などに関する質問～



【全国より上回っている『満足いく』結果のもの(肯定的な回答の全国比較)】

- 自分には、よいところがあると思う (全国比+0.7)
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う (全国比+2.1)
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだ (全国比+0.6)
- 読書が好きだ (全国比+2.8)
- 今住んでいる地域の行事に参加している (全国比+7.2)



【全国より下回る等、課題がある結果のもの】

- △学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
・2時間以上と答えた児童 (全国比-7.2)
- △困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる (全国比-6.4)
- △総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる (全国比-13.6)
- △国語の勉強が好きだ (全国比-6.0)
- △算数の勉強が好きだ (全国比-4.1)



< 成果 >

- 「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う」の問いでは、97%以上の児童が肯定的な回答をしています。これからも相手の立場に立って考えることや、相手を思い遣る気持ちを大切に生活しましょう。
- 読書が好きな児童の割合が高い結果となっています。これからも読書する機会を多く持ち、読解力や豊かな想像力を育みましょう。



< 課題 >

- △国語の勉強が好きだと答えた児童の割合は53%で、全国に比べ-6.0となっています。「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」との問いに肯定的に答えた児童の割合も全国比より低い結果となりました。他者とのコミュニケーションを大切にしながら、自分の考えや気持ちを表現する機会を大切にしましょう。
- △困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた児童の割合が、全国に比べて低いです。悩みを一人で抱え込まず、まずは身近な人に相談しましょう。